

II 河内地域計画の取組

1 地域戦略1「地域が育てるかわちの担い手、地域を支える農業基盤づくり」

取組指標(計画時の数値を上段、実績値を下段に記入する。)

指標項目 (累計)	R1 (現状)	R2 (計画時)	R3	R4	R5	R6	R7 (目標時)
新規就農者数	42人	41	40	80	120	160	200
			32	72	111	151	190
とちぎ農業マイスター、 先進農家による研修者数	5人	5	8	16	24	32	40
			6	16	26	41	49
集落営農組織(組織化) (再編数)	0件	0	0	0	1	2	3
			1	1	1	1	1
	0件	0	0	0	0	1	2
			0	0	0	0	0
水田の大区画化面積 (50a以上)	1,740ha	1,752	1,769	1,784	1,799	1,814	1,830
			1,785	1,803	1,829	1,932	1,932

重点取組 将来を担う新規就農者の確保・育成

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○就農支援ネットワーク会議を2回開催し、就農情報の共有や第三者継承等について検討しました。また、実務担当者打合せを2か月ごとに実施したことにより、関係者間の情報共有と連携が強化され、円滑な就農支援につながりました。</p> <p>○新規就農希望者が先輩農家と交流する会「アグリトーク in 河内」を1回開催しました。また、新規就農予定者の準備段階に応じて、説明会や研修会を開催しました。</p> <p>○これらの取組等により、令和3年度から7年度までの新規就農者数は190人となりました。</p> <p>○いちごにおける「とちぎ農業マイスター」を拡充しました。また、とちぎ農業マイスターや先進農家のもとで、いちごを含む各品目を志向する就農希望者が研修を実施しており、令和7年度までに49名が研修に取り組みました。</p>	<p>○就農相談に関する情報を関係機関で確実に共有するとともに、就農支援サイト「トチノ」を活用した情報発信を行い、就農希望者が円滑に就農できるよう支援していきます。</p> <p>○関係機関と連携して、就農希望者への支援および経営開始前後の指導に取り組み、新規就農者の確保・育成を図ります。</p> <p>○「アグリトーク in 河内」や各種説明会等を継続的に開催し、研修生が就農イメージをより具体的に持てるよう取り組んでいきます。</p> <p>○新たな品目(にら)について研修体制づくりを進めるとともに、なしの園地継承に向けた研修受入体制の早期確立を支援するなど、研修受入体制の整備・強化を進めます。</p>



アグリトーク in 河内（先輩農家ほ場視察と意見交換）

重点取組 地域農業を支える多様な担い手の確保・育成

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○宇都宮市および上三川町の地域会合において、担い手への農地集積・集約化や遊休農地の解消が図られるよう助言を行いました。</p> <p>○営農組織活動活性化研修会を開催し、農地所有適格法人等の事例を通じて、集落営農組織の再編について検討する機会を設けました。</p> <p>○広域営農システム構築のモデル地区である宇都宮市上小倉地区において、関係機関・団体との打合せを4回、担い手との意見交換を5回行い、地域内への集積に向けた取決めについて理解を得ました。また、上三川町上郷地区では、町、土地改良区等を交えた意見交換・打合せ等を12回行うとともに、集落営農組織代表や大規模経営体に対する個別巡回を実施し、農地の集積・集約化について理解促進を図りました。</p> <p>○農業経営個別相談会を1回、専門家派遣指導を3経営体に対して実施し、農業経営の法人化を支援しました。</p>	<p>○市町と連携して地域会合の開催や地域計画の見直しを支援し、農地の集積・集約化を推進していきます。</p> <p>○集落営農組織や担い手の経営段階に応じた支援を行い、持続的な地域農業の体制づくりを支えます。特に、地域の農地を持続的に活用する上で重要となる30ha以上の大規模担い手を育成するため、個別巡回や専門家派遣による経営改善支援を進めます。</p> <p>○支援対象者を明確化して個別相談会や専門家派遣を行い、経営の継続性および円滑な継承が可能な法人化を図ります。</p>



営農組織活性化研修会



農業経営個別相談会

重点取組 担い手のニーズに即した基盤整備の推進とスマート農業技術の活用

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○計画的に事業を進めたため、目標を上回る1,932haの水田を大区画化することができました。</p> <p>○県営農地整備事業を実施した刈沼川地区において、大区画化された水田の汎用化を図るため、暗渠排水工事を発注しました。</p> <p>○団体営による圃場整備（宇都宮市松田新田地区）の計画樹立に向け、地元説明の実施等を支援しました。</p> <p>○ほ場整備事業推進地区（上郷1、幕田西部、東谷）において、水田の大区画化の有効性について説明を行い、理解醸成を図りました。</p> <p>○畦畔除去による区画拡大要望に対し、令和8年度の事業実施に向け、要望者による採択申請を支援しました。</p> <p>○ほ場整備実施地区では、ICTを活用した水田水管理システム等の導入を支援し、水管理の省力化および水利用の効率化を図りました。</p>	<p>○刈沼川地区および海道地区における事業完了に向け、適切な支援を行います。</p> <p>○団体営事業の計画樹立に向け、地元説明会や営農検討を引き続き支援し、水田の大区画化に向けた取組を促進します。</p> <p>○ほ場整備事業の計画的な樹立に向け、引き続き関係機関と連携しながら推進を図ります。</p> <p>○畦畔除去等による区画拡大要望者に対し、適切な事業の提案等を行い要望に応じた事業実施ができるよう支援をします。</p> <p>○水田水管理システムの継続的な利用を指導・支援するとともに、さらなる導入推進により農作業時間の短縮と水管理の効率化を図ります。</p>



ICT水管理システム



農地整備の施工状況（刈沼川）

2 地域戦略2「イノベーション5」による園芸立国かわちの実現

取組指標(計画時の数値を上段、実績値を下段に記入する)

指標項目	R1 (現状)	R2 (計画時)	R3	R4	R5	R6	R7 (目標時)
主要品目における新技術 ・新品種導入者数(累計)	189戸	252	300	325	350	515	540
			309	373	488	537	548
基盤整備を契機として園 芸作物を導入した生産者 ・組織数(年)	0件	0	1	2	3	3	3
			1	2	5	3	4
新たな販売方法や販売先 を開拓した組織数(年)	0組織	0	1	1	2	2	3
			1	2	0	0	1

重点取組 新しい品種・新技術導入による収益性・生産性の向上

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○環境制御勉強会やスーパーコーチ派遣事業を活用し、環境制御技術の理解促進を図った結果、トマト、いちごを中心とした品目で ICT 環境制御技術などの新技術導入が進みました。</p> <p>○いちごの新品種「とちあいか」は、現地検討会等の機会を利用して、栽培の優位性を示し、導入を推進した結果、栽培面積は 62.7ha(前年比 2.5ha 増、とちあいかのシェア 92%)、栽培者数 277 名(前年比 27 名増)となりました。</p> <p>○いちご「とちあいか」の栽培技術と品質の底上げを目的に「未来創りサポートチーム(地域チーム)」による巡回指導を行いました。</p> <p>○いちご県育成品種について、種苗法や誓約書の内容を周知するための説明会を開催するとともに、誓約書と引換えに無病苗を配布しました。</p> <p>○県単補助事業の活用により、にらウォーターカーテン及び水圧式ニラ洗浄そぐり機の推進を図りました。</p> <p>○アスパラガス新技術として、外気導入の検討を行いました。また、高畝栽培が 2 戸で導入されました。</p> <p>○たまねぎの生産を推進するため、たまねぎ直播栽培の実演会を開催しました。</p>	<p>○環境制御の設定やデータ活用に個人差があるため、ICT 環境制御技術など導入者を対象に、環境制御技術の精度向上について支援し、技術の定着と生産性の向上を図っていきます。</p> <p>○いちご「とちあいか」については、収量・品質の個人差があることから、高品質・安定生産に向け、新規栽培者等の重点指導対象者に対し、「未来創りサポートチーム(地域チーム)」による指導を徹底します。</p> <p>○いちご種苗の取扱いについては、研修会開催を通じて、種苗法及び誓約書に基づく苗の取扱いを周知するとともに、引き続き、誓約書と引換えに無病苗配布を行います。</p> <p>○ウォーターカーテンを導入した生産者を対象としてにらの中核的生産者を育成していきます。</p> <p>○アスパラガスの若手生産者を中心に、規模拡大の推進と高畝栽培技術を確立していきます。</p> <p>○たまねぎの省力的な機械化一貫体系の確立により、大規模たまねぎ生産者を育成します。</p>



アスパラガスの外気導入



たまねぎ直播の実演会



未来創りサポートチームによる支援

重点取組 新しい生産者・組織の育成

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○海道いちご団地利用組合に新たに4戸の生産者が加わり12戸となりました。また、1期生、2期生8名を対象に、個別巡回指導と先進地視察を実施し、栽培管理の向上と品質の安定を支援しました。</p> <p>○上駒生地区夏秋いちご生産者の経営安定を図るため、とちあいかの栽培を推進した結果、令和9年産からいちごの周年栽培を行うこととなりました。</p> <p>○圃場整備を契機に新たないちご団地を設置する事業計画づくりを推進しました。</p>	<p>○海道地区いちご団地の新規就農者が、早期に栽培技術を習得できるよう、個別巡回による技術指導を徹底します。また、海道地区関係者と連携し、海道いちご団地利用組合（Strawberry 海道 Village）の自主的運営を誘導していきます。</p> <p>○生産者の所得向上を図るため、「なつおとめ」と「とちあいか」の2品種を活用した周年栽培の技術支援を継続していきます。</p> <p>○土地改良区と連携を図り、基盤整備と連動した、新たないちご生産拠点創出を支援して行きます。</p>



海道いちご団地利用組合先進地視察



夏秋いちご地現地検討会

重点的取組 新しい流通体制や販売チャンネルの獲得による産地の確立

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○なし「にっこり」の輸出（1戸）の検疫対応、いちごの輸出（10戸）のこん包施設認定、ぶどうの園地及び施設登録の支援を行いました。</p> <p>○県マッチング商談会に誘導した生産者が、新たな販売先として、県外加工業務実需者と販売を始めました。</p> <p>○道の駅かみのかわ(仮称)の施設整備に係る計画書策定の支援を行いました。</p>	<p>○輸出を行っている事業者の実態把握を行うとともに輸出代行業者と連携した出荷者の開拓を行っていきます。</p> <p>○生産者の新たな販路開拓に向けて、情報提供を継続して行っていきます。</p> <p>○農産物直売所などの施設整備にか係る情報提供や計画書策定について支援を行っていきます。</p>



宇都宮産輸出用にっこり

3 地域戦略3「伝えよう、つなげよう！河内地域の農村活力向上」

取組指標(計画時の数値を上段、実績値を下段に記入する)

指標項目 (累計)	R1 (現状)	R2 (計画時)	R3	R4	R5	R6	R7 (目標時)
新たな多面的機能支払活動組織数	66 組織	66	67	68	69	(70) 72 ※	(71) 73 ※
			67	68	71	73	74
企業との連携による農業・農村の交流	4 件	4	4	4	5	6	7
			4	4	4	4	4
SNSによる情報サイトフォロー数	一人	1,076	1,200	1,300	1,400	(1,500) 2,150 ※	(1,600) 2,800 ※
			1,569	1,853	2,053	2,584	3,292

※ 目標の上方修正

重点取組 地域住民による農村環境の保全

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○多面的機能支払交付金の取組推進について、活動組織数は目標の73組織に対し、最終年度は74組織となり、目標を上回る成果を上げることができました。一方で、既存組織においては、構成員の減少や高齢化の進行により、将来的な活動の維持が懸念される状況となっています。</p> <p>○農村地域における新たな草刈体制の構築に向けて、草刈隊の設置や高機能草刈機の導入について、各市町で開催した座談会(計3回)を活用し、積極的に提案を行いました。</p> <p>○圃場整備計画推進地区(幕田西部、東谷)において開催された地元説明会の場で、多面的機能支払交付金活動について周知を行い、新たな活動導入に向けた働きかけを行いました。</p>	<p>○農村環境の維持・保全を図るため、既存組織が継続して活動できるよう体制強化を支援するとともに、草刈隊の結成など効率的な活動体制づくりを推進します。あわせて、広域組織に未加入の活動組織に対し、加入の意義を周知し、参画を促進します。</p> <p>○草刈隊の結成促進に向け、高機能草刈機導入チェックリストの活用を進め、地域座談会で草刈隊の意義を周知するとともに、県内優良事例の紹介により結成機運を高め、体制整備と継続的な啓発を行い取組促進につなげます。</p> <p>○圃場整備計画地区等において、引き続き意識醸成を図り、取組の促進を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地区：幕田西部、東谷、上欠 ・上三川町東部を重点区域とした支援



田川流域農村地域雨水流出抑制対策協議会



多面的活動組織による座談会



合併予備契約書調印式

重点取組 多様な企業との連携による新たな取組の促進

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○企業との連携による農業・農村交流については、目標としていた7事業者に対し、最終年度の実績は4事業者となり、目標を下回る結果となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による交流自粛の長期化により、交流機運が低下したことに加え、企業へのアプローチが十分に行えなかったこと、連携のメリットを十分に伝えきれなかったことが要因です。</p> <p>○農福連携については、目標2件に対し、ニラの捨て刈りやにんじんのトンネルハウスの片付けなど、3件の新規契約が成立しました。これにより、社会福祉法人等とのマッチングが拡大し、農福連携の取組推進につながりました。</p> <p>○とちぎ地域資源活用・地域連携サポートセンターのプランナー派遣制度を活用し、管内4事業者に対して、6次産業化の取組促進や販路拡大に向けた伴走支援を行いました。</p> <p>○文星芸術大学と連携し、農産物等の販売促進ツールに関するデザイン相談会を開催しました。相談会では、管内4事業者を対象に、商品のパッケージデザイン作成を支援しました。</p>	<p>○企業との連携を拡大していくためには、取組による具体的なメリットを分かりやすく伝えることが重要であるため、今後も企業への訪問や情報提供を継続的に行っていきます。</p> <p>○農福連携制度のさらなる普及を図るため、関係機関に対して制度の周知や新規委託農家の掘り起こしについて協力を依頼していきます。既存の取組者に対する継続的なフォローを行うとともに、新たに取り組む農業者に対しては、セルフセンター等と連携しながら、円滑なマッチングを支援します。</p> <p>○農業者の所得向上を図るため、市町との情報共有を密にし、農産物の高付加価値化や販路拡大に取り組む農業者に対して、引き続きイノベーションサポートセンターのプランナー派遣制度を活用した支援を行います。</p> <p>○デザイン相談会の参加者に対するフォローアップを行うとともに、多様化するマーケティング手法や消費者ニーズに対応するために必要な知識やスキルを習得できる研修会等を開催し、農業経営の発展を支援していきます。</p>



プランナー派遣



販売促進ツールデザイン相談会



農福連携除草作業

重点取組 誘客促進と情報発信による農村活力の向上

取組結果と成果	課題と今後の対応
<p>○SNS 等のフォロワー数は、目標の 2,250 人に対し、最終年度は 3,292 人となり、目標を大きく上回りました。Facebook、YouTube、Instagram において「かわちわくわくちゃんねる」を運営し、グリーン・ツーリズムや都市農村交流施設、各種イベント情報など、幅広い情報を発信しました。投稿記事数についても、目標 100 件に対して実績 140 件となり、計画を上回る情報発信を行うことができました。</p> <p>○管内 6 事業者・26 種類のツアーを掲載したグリーン・ツーリズム関連のイベントチラシを 2 回作成し、管内の全小学生等に配布しました。その結果、多くのツアーで定員を上回る申込みがあり、農村地域への誘客促進につながりました。</p> <p>○河内地域の農産物や農産加工品の PR および販路拡大を目的として、「バレンタインマルシェ in かわち」を開催しました。当日は多くの来場者が訪れ、地域農産物の魅力発信と消費拡大に寄与しました。</p> <p>○とちぎ地域資源活用・地域連携サポートセンターと連携し、専門家派遣の活用や、同センターが実施する実践セミナーへの参加を促しました。専門家派遣は 3 者・延べ 7 回実施し、経営改善や販路開拓に向けた具体的な支援を行いました。また、実践セミナーには 2 名の参加につながりました。</p>	<p>○SNS 等による情報発信については、農園や生産者、農産加工品の紹介など、「行ってみたい」「食べてみたい」と感じてもらえる内容に加え、農村環境の保全など「応援したい」と思ってもらえる情報を積極的に発信し、農業・農村の魅力がより一層伝わるよう工夫していきます。</p> <p>○グリーン・ツーリズムの取組が継続的に実施されるよう、人材育成や推進体制の強化を図るとともに、ツアー企画における適切な価格設定や収益性の確保について、事業者に対して助言を行っていきます。</p> <p>○マルシェについては、出展する農業者にとって学びや成長につながる場となるよう、開催前に研修会を実施し、マルシェを実践の場とした研修プログラムを展開していきます。</p> <p>○農村プロデューサーやサポーターの活用、情報交換会の開催などを通じて、地域全体の機運醸成を図り、農村活力の向上につなげていきます。</p>



グリーンツーリズムイベントチラシ



Instagram



Facebook



YouTube



バレンタインマルシェ in かわち